Ⅱ　山口県の調査結果

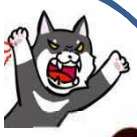
1　イヌの調査結果

□：山口県で陽性が確認されたもの

検査対象		感染症名	検査方法	実施年度	陽性/検査件数	検出率%
イヌ	口腔/病巣部/咽頭	ジフテリア毒素産生性コリネバクテリウム・ウルセランス感染症	病原体分離	H19～21	0/116	0.0%
			遺伝子検出		0/111	0.0%
	口腔	パスツレラ症	細菌培養	H14～15	141/219	64.4%
		カプノサイトファーガ感染症	病原体分離	H22～24	72/171	42.1%
			遺伝子検出	H22～24	149/171	87.1%
	尿	レプトスピラ症	鞭毛遺伝子(*fla*B)検出	H21～22	0/ 85	0.0%
	糞便	サルモネラ症	細菌培養	H12～13	1/353	0.3%
		腸管出血性大腸菌感染症	細菌培養 ベロ毒素遺伝子検出	H12～13	0/353	0.0%
		エルシニア感染症	細菌培養	H12～13	2/353	0.6%
		カンピロバクター症	細菌培養	H12～13	1/149	0.7%
		クリプトスポリジウム症	病原体検出	H14～16	11/264	4.2%
		ジアルジア症	病原体検出	H14～16	3/264	1.1%
	血清	レプトスピラ症	抗体検出	H12	(77/ 90)	ワクチン接種の影響により確認できない
		トキソプラズマ症	抗体検出	H12～15	17/322	5.3%
		Q熱	抗体検出	H16～18	1/162	0.6%
		イヌブルセラ症	抗体検出	H17～19	1/131	0.8%
		E型肝炎	病原体遺伝子検出	H17～19	0/131	0.0%
		猫ひっかき病	抗体検出	H13～15	31/322	9.6%
		重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）	抗体検出	R1 ～ 6	6/178	3.4%
	血液	レプトスピラ症	鞭毛遺伝子(*fla*B)検出	H23	0/ 30	0.0%
		猫ひっかき病	病原体検出	H13～15	0/221	0.0%

注意を要する感染症（イヌ）

咬傷・掻傷による感染



パスツレラ症

〈症状〉
- 受傷部位の炎症（蜂窩織炎※1）、関節炎、骨髄炎
- 重症例では、敗血症※2や骨髄炎により死亡することもある

カプノサイトファーガ感染症

〈症状〉
- 発熱、倦怠感、腹痛、吐き気、頭痛
- 重症例では、敗血症※2や髄膜炎により死亡することもある

重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）

〈症状〉
- ６日から２週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢等）を発症し、重症例では死亡することもある
- 罹患したイヌから感染するおそれがある

咬傷・掻傷、ノミの媒介による感染

猫ひっかき病※3

〈症状〉
- 受傷部位の発疹、潰瘍
- 受傷部位の所属リンパ節の腫脹、疼痛
- 発熱、悪寒、食欲不振、頭痛
- まれに合併症として、脳症、髄膜炎、肝脾膿瘍※4が起きることがある

糞便を介した感染

クリプトスポリジウム症

ジアルジア症

〈症状〉
- 腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状

※1 蜂窩織炎：皮膚の深いところから皮下脂肪組織にかけておこる化膿性炎症
※2 敗血症：血液中に病原体が入り込み、重篤な全身症状を引き起こす病気
※3 猫ひっかき病：主にネコのひっかき傷や咬傷から感染するが、原因菌である *Bartonella henselae* をイヌも保菌しており、注意が必要
※4 膿瘍：炎症により局部的に組織が融解して膿がたまった状態

予防方法

○口移しで餌を与えたり、食器を共用するなど、動物との過剰なふれあいを避ける。
○動物と接触した際は、手洗いを励行する。
○噛まれたり、ひっかかれたりしないように注意する。
○万一、咬傷や掻傷を受けた場合は、傷口を石鹸でよく洗い、医療機関を受診する。
○動物の適正飼養管理（ノミ、ダニの駆除等）を実施する。
○動物の糞便を適切に処理する。